令和元年度第3回芽室町総合計画審議会　議事録

令和元年9月10日（火）18:30～19:45

めむろーど2回セミナーホール

出席委員（11名）

貫田会長、谷口副会長、岡田委員、小椋委員、小池委員、小林委員、佐藤(正)委員、

鈴木(修)委員、鈴木(智)委員、千葉委員、鳥本委員

欠席委員（5名）

廣江副会長、佐藤(得)委員、早苗委員、白銀委員、松山委員

事務局・説明員

石田企画財政課長、中村企画調整係長、餌取主事、上田主事

安田総務課長、有澤保健福祉課長、塚田保健福祉課長補佐、杉山子育て支援課長、有本子育て支援課長補佐、佐々木農林課長、紺野商工観光課長、橋本建設都市整備課長

オブザーバー

十勝総合振興局地域地域創生部地域政策課　千葉課長

開会

会長挨拶

議事

会長：それでは、早速審議に移りたいと思う。初めに「産業雇用プロジェクト」に関して、事務局より説明をお願いする。

事務局：資料に沿って説明。

会長：この項目に関して、皆さんからのご意見を頂きたい。ご意見のある方、挙手をお願いする。

委員：産業雇用プロジェクトの関係でいくつか質問がある。１点目は、「施策の方針」と「結果」についての関係性を知りたい。どうしても、主管が農林課さんということで、方針については農業を中心として、これから色々な、販路拡大であるとか企業誘致を行っていくと思う。そこでポイントとなるのが、雇用創出、すなわち従業員さんをいかに増やすことが出来るかということだと感じる。しかし、そこと「結果」の欄にある「人口減少に歯止めがかかり、住み慣れた地域で、安心して住み続けられる」という所の関係性が今一つ薄く感じる。２頁目の評価を見ても、農業算出額であるとか食がどうであるということが記載してあるが、やはり農業と雇用の創出ということにそこまで密接な関係があるとは感じられない。どうしても、「農業さえ良ければ他は良いのか？」という感覚を抱いてしまうのだが、如何か。

２点目は、ＫＰＩに関して。ここに記してある町内企業数が、2018年度は739とのことだが、この統計の取り方については、例えば東京の企業の芽室営業所であるとか、芽室町に法定所在地を置く法人もしくは芽室町に住所を置かれている個人事業主であるとかいうよりも、どれだけの事業所を含めたものかという所がポイントになっているのがこの739という数字だと思う。逆に言えば、このＫＰＩの企業数については、個人事業主である農業者さんはカウントされておらず、農業法人だけである。ここで言えば、農業法人はこの時点で33社あったのだが、農業法人でない所はカウントされないので、実際問題農業戸数は減っていっているかも知れないにも関わらず、ここは変な話、プラスに見えてしまうかなと感じた。

ただ、これを持って成果指標にするのではなく、私が知りたかったのは、「施策の方針」の中にもある、雇用創出というポイントは、まち・ひと・しごとにおいてもかなり重要な点だと思うが、「働きたいと思える就業環境を作る」ということを考えると、事業所数よりも、従業者数のほうはどうなっているのか、というのが一つ気になっているところである。

企業誘致という中で、一番最初に頭に思い浮かぶのは、工業団地だと思う。そこで色々な事業所を誘致する、もしくはまちなかの空き店舗対策というのもあるかも知れないが、どうしてもこの５年、１０年の芽室町を考えると、従業員数も増えたかも知れないが、芽室町民がそこで働いているとは思えない。例えば、働いている所が芽室であっても、住民票が帯広・音更やその近郊であって、お金を落とすところは地元である帯広、という人が、あくまで傾向ではあるが多いと感じる。また、宅造された東芽室についても、逆に住民票上では芽室だが、芽室以外で働いて、そこでお金を落とす、というケースが見られる。

これらの共通点は何かと考えた所、私は、問題は郷土愛だと感じる。実際問題、芽室で働きたいと思える就業環境ということをもう一度広げて考えた時、もしかしたら利便性だけで、そこで働きます、とかそこで事業所を建てました、とかいうのも町としての税収の面では有りなのかなとも思うが、将来的にこの、「人口減少に歯止めがかかり、住み慣れた地域で安心して住み続けられる」という結果に翻って考えた時に、　必ずしもマッチしないというのをこの１年間私は痛く感じている。

色々な町を見てきた中でのイメージは、やはり利便性でこの政策をプラスに持っていくことは可能かも知れないが、中・長期的に、５年後・１０年後を見据えて持続可能な、ということを考えた時に、やはり郷土愛の醸成が大切なのではないかと思っている。

色々とお話をさせて頂いたが、まとめると、農業を主要としたものだけで評価の、色々な物を判断するというのは中々難しいのではないかという部分と、町内企業数ということに関しても、ここだけでこの施策を判断することは出来ず、従業員数や郷土愛という所を考えた時に産業雇用プロジェクトというのはどうなるのか、という部分に関してお聞きしたい。以上である。

会長：ただ今のご質問と見解に対してのお答えを、担当課からお願いする。

農林課長：ただ今の２点のお話に関して、１点目の施策の方針と結果については私の方から、２点目のＫＰＩ、評価指標についての考え方は商工観光課長の方からお答えさせて頂く。

１点目、農業という部分と人口減少に歯止めがかかるという結果の繋がりに関してだが、我々も「農業さえ良ければすべて良い」という風には決して考えてはいない。ただ、芽室町の基幹産業が農業であるということは間違いなく、成果指標として、毎年300億円程度の算出額が出ているが、専門機関によると、300億の5割増し、450億円が地域への経済効果として波及しているというお話も頂いている。このことからも、やはり、基幹産業である農業が元気になればなるほど、町全体の経済環境、雇用環境、住宅環境というものが波及効果として生まれるだろうと考え、その結果として魅力ある町になり、それが人口減少に歯止めをかけ、安心して住み続けられる地域へ繋がっていくという、我々としてはそうした流れのイメージを持ちながら施策に当たっているところである。

商工観光課長：２点目に関して、まず町内企業数の考え方だが、これは仰る通り、事業所・企業統計調査のほうから引っ張ってきている。指標については、基本目標にある通り「安定した産業と雇用の創出」とあり、「意図」には「新たな雇用の場を創出する」、すなわち安定した産業と雇用を創出するという中で、やはり企業があっての雇用の場、という風に考えている。そういう部分では、新たな企業が増えることにより雇用の場も増えていくだろうと思っている。指標の考え方だが、実際に町でとらえることの出来る数字というのが、町内企業数ということで、指標のほうに掲げている。

指標の考え方についてはまた今後の参考とさせて頂く。以上である。

委員：ありがとうございます。今、商工観光課の方から今後の指標の考え方ということで回答頂いたので、ひとつお願いしたいのは、企業数を出すこと自体は否定しないが、やはり従業者数、そこで働かれている方がどれくらいなのかを記して頂きたい。

例えば１人親方の所でも１社としてカウントするし、100人規模の所でも１社としてカウントされてしまうので、どうしてもそこでの従業者数が重要になってくると思う。従業員数を明らかにすることで、色々な、新たな「気づき」が生まれるのではないか。また、同様に芽室町民が芽室町外で働いている人数や、芽室町以外から芽室町に働きに来ている人数も知りたい。町のほうで所得税等を管理されている関係で割り出せないか。こうした数字が分かれば、今までよりも更に多くの課題が見えてくると思うので、是非とも色々な指標を持って、こうした色々なことを教えていただければと思う。以上である。

会長：他に、この項目に関して意見のある方はいるか。

委員：（意見なし）

会長：無いようなので、次に、施策の評価を行って頂く。評価に関して意見はあるか。

委員：（意見なし）

会長：それでは、庁内評価と同じく「C」ということでよろしいか。

委員：（異議なし）

会長：それでは「C（策定時と比較して前進した）」と評価する。

会長：続いて、「女性活躍プロジェクト」に関して、事務局より説明をお願いする。

事務局：資料に沿って説明

会長：この項目に関して、皆さんからのご意見を頂きたいと思う。

委員：参考までにお聞きしたい。９回の開催回数で15名の参加があったとのことだが、この15名の内訳というのは、常連さんなのか、毎回違う方なのかを知りたい。

商工観光課長：参加内訳に関しては、やはり常連の方が多い状況。新規の方も何名かいらっしゃるが、どちらかというと継続して参加という方が多い。

会長：他に、この項目に関して意見のある方はいるか。

委員：（意見なし）

会長：無いようなので、次に、施策の評価を行って頂く。評価に関して意見はあるか。

委員：（意見なし）

会長：それでは、庁内評価と同じく「C」ということでよろしいか。

委員：（異議なし）

会長：それでは「C（策定時と比較して前進した）」と評価する。

会長：続いて、「定住促進プロジェクト」に関して、説明をお願いする。

事務局：資料に沿って説明。

会長：この項目に関して、皆さまからのご意見があれば頂きたいと思う。

委員：（意見なし）

会長：無いようなので、次に、施策の評価を行って頂く。評価に関して意見はあるか。

委員：（意見なし）

会長：それでは、庁内評価と同じく「C」ということでよろしいか。

委員：（異議なし）

会長：それでは「C（策定時と比較して前進した）」と評価する。

会長：続いて、「子ども育成プロジェクト」に関して説明をお願いする。

事務局：資料に沿って説明。

会長：この項目に関して、皆さまからのご意見があれば頂きたいと思う。

委員：質問を２点させて頂く。１点目は、重要業績評価指標の欄で、「安心して子育てが出来る環境と思う町民の割合」が、2018年までずっとほぼ３分の２という状態だが、これは言い換えれば３分の１は不安に感じているということだと思う。これは決して無視できない割合だと思うので、この３分の１の方々は何を不安に思っているかということをお聞きしたい。

２点目は、病後児保育の問題。５番の課題２で、「病児保育実施を求める声が根強くあることから、町内関係機関と実施に向けた協議を今後も継続していく」とある。この点に　　　ついて詳しくは分からないが、病児保育に当たってどういった事柄が課題としてあるのかということを詳しく説明頂きたい。以上、よろしくお願いする。

会長：担当課長から回答をお願いする。

子育て支援課長：まず１点目。町民の割合の、満足していないという方々の意見の多くは、子どもの医療費の問題についてであった。十勝管内、道内でもそうだが、殆どの所が中学生まで所得制限を撤廃して医療費を助成している。そうした実態を踏まえて、医療費の方を芽室町においても拡充して頂けないか、というような意見が多かった。後は、保育料についても、働くお母さん方が増えており、非常に保育園に入園しているお子さんが多く保育料軽減を求める声が大きい。町としては、今年の４月から所得制限を撤廃して中学生まで医療費の助成のほうを拡大している。また、保育料に関しても、国のほうで１０月から幼児保育の無償化が始まるので、こちらについては３歳から５歳までのお子さんを持つ保護者に関しては保育料が無償になり、また、０歳から２歳までの非課税のお子さんについても無償になるので、そういったことで、保護者にとっては、今後経済的負担が軽減されるということで、次年度のアンケート結果では満足している方の割合も少し上昇するのではないかと思われる。

次にもう１点、病児保育について。現在、町内において、病後児保育、こちらは回復期ということで熱が下がったようなお子さんを保育する施設は町内にある。ただ、朝急に子どもが発熱してしまってどうしても仕事を休めない、という保護者の方から、町内の保育施設あるいは医療機関において病後児保育と同様に病児保育を求める声は根強く存在する。

そういった意見を踏まえて、現時点では町内での実施が非常に難しかったということで、昨年の４月から、帯広などの町外で病児保育を実施している施設があるので、そちらの施設を利用された保護者の方に対し、利用費の半額を助成するという制度を行っている。

また、芽室町においても、町内での実施に向け今後も関係者と協議を行い、意見交換を重ねていきたいと考えている。以上である。

企画財政課長：１点補足させて頂く。アンケートの取り方について、「安心して子育てができる環境であると思う町民の割合」という設問だが、これは選択肢が５択であり、「思う」「どちらかというと思う」「どちらともいえない」「どちらかというと思わない」「思わない」の５つから選ぶ方式になっている。ここで出している割合は、この中の「思う」と「どちらかというと思う」の割合を合わせた数字であり、これが仰る通りの３分の２となっている。

対して、「思わない」と「どちらかというと思わない」を合わせた数字は５．９％である。そのため、３分の１の方が「思わない」と感じているという訳ではない。

また、この５．９％の方々が満足していない理由に関しては、先程子育て支援課長が説明した通りである。

委員：回答ありがとうございます。色々と環境が揃って来ているとのこと、理解した。

会長：他に、この項目に関して意見のある方。

委員：（意見なし）

会長：無いようなので、次に、施策の評価を行って頂く。評価に関して意見はあるか。

委員：（意見なし）

会長：それでは、庁内評価と同じく「C」ということでよろしいか。

委員：（異議なし）

会長：それでは「C（策定時と比較して前進した）」と評価する。

会長：続いて、「健康いきいきプロジェクト」に関して、説明をお願いする。

事務局：資料に沿って説明。

会長：この項目に関して、皆さまからのご意見があれば頂きたいと思う。

委員：（意見なし）

会長：無いようなので、次に、施策の評価を行って頂く。評価に関して意見はあるか。

委員：（意見なし）

会長：それでは、庁内評価と同じく「C」ということでよろしいか。

委員：（異議なし）

会長：それでは「C（策定時と比較して前進した）」と評価する。

会長：続いて、「小さな拠点プロジェクト」に関して事務局から説明をお願いする。

事務局：資料に沿って説明。

会長：この項目に関して、皆さまからのご意見があれば頂きたいと思う。

委員：施策の事業費が０ということで記してあるが、これは計り辛いために入れていないという理解でよろしいか。

企画財政課長：資料の中にもあるが、この事業は町で何かをやるということではなく、地域の活動を側面支援するということで、この事業に特化した事業費であったり、この事業に特化した人工数は出していないというのが現状である。

会長：他に、この項目に関して意見のある方。

委員：（意見なし）

会長：無いようなので、次に、施策の評価を行って頂く。評価について意見はあるか。

委員：評価に関して疑問に感じたことを述べさせて頂く。現在評価がCという形で来ているが、そもそも評価基準となる数字のようなものは無い。例えば、僕はBでいいという風に感じているが、最初の数字が無いため、今現在の数字がいくら出ていても比較しようがないのではないか。そういう観点からいくと、単純にCと評価してしまうのもおかしいのではないかと感じる。ただ単純に今行われている事業であるとか、これから進めていく事業であるとか、そうしたものを考えた時に、充分Bでも良いのではないかという風に考えるが、如何だろうか。

会長：ただ今、評価についての意見があった。この数字だけを見ればBという評価でも良いのではないかということだが、他の皆さんからも同じ件に関してご意見があればお聞きしたい。

委員：（意見なし）

会長：無いようなので、担当課長から回答をお願いする。

企画財政課長：ここは評価が非常に難しい所であり、前回やって頂いた施策評価もそうだが、数値はあくまでも参考だということで、数値イコール評価ではないということをご理解頂きたい。もし数値がそのまま評価になるならば、皆で顔を合わせて時間をかけて意見交換する必要もない。数値を参考としながら、ではその背景には何があるのか、ということを考えて頂きたいので、もし皆さんが色々なことを考えて頂いた上でBということであれば、それは全く問題がない評価であると思っている。

会長：ただ今のご意見を踏まえた上で評価をお願いする。「B」と「C」で多数決をとる。

委員：（挙手での多数決）

会長：それでは、多数決により「C(策定時と比較して前進した)」と評価する。

ただ今評価に関して頂いたご意見も事務局のほうで記載して頂き、今後の評価についての参考にしたいと思っている。

また、上美生地区に関する話ということで、私からの意見を一言言わせて頂きたい。

上美生地区への転入者として、ここに記してある数字の通り、かなり多くの方々が来られていることと思うが、担当課は側面的な支援を行うということで、あまり立ち入った調査はなさらないのかも知れないが、せっかく転入してくれた方々が現状どうなのか、地域に対して何を感じているか等、そういう調査というか、聴き取りもして頂ければ今後にも活かせると思う。よろしくお願いする。

会長：それでは、続いて「施設最適プロジェクト」に関して事務局より説明をお願いする。

事務局：資料に沿って説明。

会長：この項目に関して、皆さまからのご意見があれば頂きたいと思う。

委員：意見なし

会長：無いようなので、次に、施策の評価を行って頂く。評価に関して意見はあるか。

委員：（意見なし）

会長：それでは、庁内評価と同じく「C」ということでよろしいか。

委員：（異議なし）

会長：それでは「C（策定時と比較して前進した）」と評価する。

会長：以上で、本日の評価を終わります。それでは、ここで、オブザーバーの千葉様からご意見を頂きたいと思います。よろしくお願いします。

オブザーバー：私のほうで実際聞かせていただいた中でも、例えば初めの農業分野の関係でもご指摘があった「農業だけで良いのか」とのご意見や、女性活躍の部分でもあったが、今回こうした形で数字のほうや施策の評価を行ったことが、次回で、むしろどんな形に繋がるのかということで、是非良い形になれば良いと期待している。農業だけでも、例えば新規事業の参入であるとか、農業産出額だけでなく、二次波及部分も見えれば良いなと思っているし、女性の活躍についても、女性という分野だけでなく、高齢者の方であるとか、様々な世代の交流に向かっても進めばいいなと思った。

また、関係人口の増加ということも今回キーワードのほうでも入れて頂いているので、その観点からも引き続き見させて頂ければなと思った。以上である。

会長：ありがとうございました。それでは、事務局より今後の予定についての説明をお願いする。

事務局：次回の審議会は11月を予定している。

会長：最後に、全体を通して皆さんからご意見、ご質問があればお願いする。

委員：（意見・質問なし）

会長：無いようなので、以上をもって本日の審議会を終了させて頂く。

（終了）